

## 信仰座談

### 結果か道程か

- 先生いくら聞いても信仰が得られませぬ。どうしたらいいのでしょうか。
- △ 何がわかりませんか。
- 私が地獄者だとも知れていますし、み仏が無いとも思いませんが、どうしてもおちつけませぬ。やはり疑うと言ったらいいのでしょうか。
- △ あなたはいつたい日ごろどんなに聞いていますかね。そしてどうなったら氣にいらるのですかね。
- 毎日地獄の罪ばかり造っている私でも、信心さえいただいたら極樂に参らしてもらえると聞いています。私は信心がいただきたいのです。
- △ 信心さえ頂いたら極樂に参られる。それであなたは信心をいただきたい。ただだけませぬか。
- ずいぶん長い間、苦しみながら今日こそはと思ってお寺に参りますが、どうしても信心がいただけませぬ。ありがたいと思うこともありますが、泣いてよろこんだこともありますが、それは私が私をたぶらかしていたのです。
- △ 信仰を得たいと思うあなたは、あまりに一足飛びを考えているのではないでしょうか。信心を獲ることにあせりすぎているのではないですか。
- はじめてそんなことを聞きます。どういう意味なのですか。
- △ あなたは答えをさせるのです。そのために重要なものを見忘れています。
- 重要なものを見忘れているとは、何を見忘れているのでしょうか。
- △ あなたは「自分自身」というものについてよく知っていますか。
- 私は常に聞いております。私は地獄一定者でございます。その話はきかなくてもいいのです。私が行かねばならぬ三悪道のことには常に聞きもし、『往生要集』などで見ています。
- △ さ。それがいけないのです。あなたは自分を地獄者と信ずるのでなくて、地獄者とかたづけただけです。自分をぬきにしては信仰はないのです。
- でも私が地獄者であることはわかっているではありませんか。
- △ それがわかれば、そんなに信心がないなどと言ってはいられないのです。現にあなたは信心がいただけないと困っているではありませんか。
- ……………
- △ あなたは信仰を求めるのではなくて、宗教の型にはまろうとしているのです。いたずらに信仰という概念に苦しめられているのです。地獄、極樂、信仰、お助け、そんな血も通わぬ言葉を集めて、それに どうしたらはまるか。そしてその型にはまることが親鸞聖人の宗教のように思っています。それはまったく聖人のお考えとちがいます。
- どうすればいいのですか。私はさっぱりわからなくなつたのです。

- △ 一切の言葉も型もすてるのです。そこから一切は生まれるのです。
- 一切を棄てたら何が残ります。私が今まで求めたのは皆だめなのですか。
- △ 一切を棄てたらただ「あなた」だけが残ります。
- その私をどうすればいいのです。ああ私は苦しい。
- △ それは私にはわかりません。その苦しいあなたの内にそれからほんとの道が開けるのです。真実の道を求めるのです。あなたのありつたけを投げ出して求道するのです。
- そんなことをしていたらいつ安心ができるか知りません。
- △ それだからだめです。私はあなたに注意します。私どもはややもすれば結果のみに目をつけ、目的だけを早く達しようとしています。けっして最後を急いではいけないのです。
- それでは命がないかも知れませぬ。
- △ 真実の求道者はそんなことを言っではいられないのです。よし私たちが一生の間、求めて求めて、真生命にふれずして死んだにしても、それが真実であれば、真実に進んだことにおいて、それは尊い生活である。安つぽく型にはいつたのよりどれだけ尊いか知れない。
- それでは親鸞様と同じようにせよと言われるのですか。
- △ 親鸞様と同じように山に登って自力のかなわぬことを知れというのではないのです。けれども血みどろになって求めて行かれた九歳から二十九歳までの聖人を忘れて、ただ、法然上人の前における聖人をまねしようとしても、それはできぬことです。宗教は時に人を真実の道へ導きもしますが、時には盲目的に求めようとする者を殺しもするのです。型にはまろうとするのは亡者になるのです。あなたはあなたの道に生きてゆくことが親鸞様の教えです。
- それでは信心を得さえすればいいのではないのですか。
- △ それが得られないではありませんか。真実に自分のことを考えないで縁遠いことばかりしているからだめなのです。瓜の苗から一足飛びに瓜はなりません。
- わかりました。私はあまり信心を得て極楽まいりがしたいと、そればかりあせつていました。
- △ 学校に行く子どもを持った愚かな親たちは、ただその子どもがりつぱな成績表を持って帰ることのみに気をつけます。それだから子どもの方も算術の答えばかりに気をとられるのです。学校の教育では、もちろん答えは必要ですが、それよりも、まづ問題を考えたり、計算したりすることによって頭ができる。その答えまでの途中を重んじます。答えだけを早く早くとあせるから理解がなくても、人を見てでも答えさえ出たらと、それにとらわれます。
- 私がそれでありました。わかりました。私は信仰とか何とか言う前に、私は私自身であらねばなりません。なんだか心が広い所に出た気がします。
- △ そうです、そうです。その気持で、常に自分を見てゆくのです。自分を見ないで、足の浮いた者が、信仰とか宗教とか騒いでいるのが一番いやです。自分を見ながら虚心に一切の人の話に耳をかたむけて育てられていくのです。私たちは自分の魂

の内に聖人の魂の声を聞いて、やがて同一なる信心を得ることができるのは、地獄者と言葉の上で自分をかたづけ、かたづけられてしまうような、自分自身を愛することのない者が味わう世界ではないのです。真実に自分を提げて苦んだ者の魂のどん底に見出だされる如来廻向の尊い天地であります。